

## 七回生同期会開催の報告

「やるか、止めるが、そこが問題だ！」というのが、7回生同期会担当幹事達の課題だった。今回の担当はG組で、高梨晃一、藤本允、奥山（早藤）久代、宮岡（淑子）の四名。近年二回はコロナ禍で中止、この原稿を書いた時点でもまだ収束を見ていない。

私達七回には永年献身的に同期生のまとめ役を務めてくれている吉村悟さんの存在が大きい。同期生の遺族から直接彼の所へ訃報が届くが、最近急速に増大した。実は私の所へも友人達から「A・Bさん共にいまや病床に伏したし、C/Dさんは急逝、昨年なら何とか逢えたのに」と連絡が入っている。「今年はずいぶん開催したい」と担当幹事に提案してみる。

私達の七回生の同期会の大きな特徴は、当日会場で配られる「近況報告」にある。これは出欠を問う往復はがきの返信欄に近況も出来るだけ記述してもらい、それを全文記載した冊子だ。開催当日会場では皆再開の喜びで興奮すぐ終了の時間がきてしまう。そこで帰路改めて「近況報告」を読むと、現在闘病中の方々からの同期会への応援文の数々、あるいは現役活動中の元気印の面々からの、「当日は学会で講演」だ

とか、「会社の役員会で事業報告をする日と重なった」とか欠席の理由説明も多数有る。後々友人達への連絡にも役立つ情報源だ。

ただこの「近況報告」を編集するには影の協力者小出富江さんの協力が必要不可欠なので、まず電話してみる。ところが手術後で今は療養中との事！さらに肝心の吉村さんもコロナに感染したとのこと。それでも会場はどうなるかと、前年に仮予約した店に改めて問い合わせると五十名くらいなら可能とのこと。ただしコース料理で各人座席固定、食事中以外はマスク着用のこと。それでもこの季節多人数の会合、

左は七回生の同期会で参加者に配布する「近況報告」です。「近況報告」は平成十七年に初めて作成して以来、今回で九冊目です。毎回A4で四ページの労作です。今回の表紙は版画家の54百瀬晴海さんにお願いで使わせて頂きました。なお作成は7小出富江さんが毎回担当されています。



## 7回生同期会 近況報告

2022/11/9

を確保できるのは貴重だ。会費は余裕を見て前回より高いが七千円と仮決定、各クラスの代表幹事に連絡し開催内容を承諾してもらった。

令和四年の八月になって吉村さんも何とか自宅隔離を終え、出欠確認の往復はがきを出して貰った。更に念のため九月に「十一月九日に同期会を開催する」旨の確認の葉書を出席の回答をした人全員に送った。その頃には小出さんとの連携プレイも宜しく「近況報告」も出来上がった。G組の幹事は開催日の前々日に朝陽同窓会の事務室に集合し、「近況報告」の印刷や冊子に綴じる仕事を行い、さらにそれを会場まで運搬した。そしてついでに当日の机の設置などを確認するなど良く働いた。かくして令和四年十一月九日の十二時より同期会が開催され、四九名の同期生が参加した。受付時に多少の混乱はあったが、まずは無事に開催出来て本場に良かった。

会場内には二か所にスクリーンがあり、食事中は原則着席ながら皆上手に近隣の席にいる人と会話したり、映像から高校時代の思い出を楽しんだりして穏やかに進化した。新宿御苑を中心に撮った見事な鳥類アルバムを見せてくれる人や、故郷鳥取で十年來の仲間たちと各界の専門家を招聘し多数の講

演会を持ち、地方文化の活性化を進行中との話もあり、皆の関心を集めていた。

八五歳を迎えての同期会だったが、現在の悩みばかりでなく展望をもっと先に広げて、次世代に何かを繋げて行きたいと願う、活力を喚起させてくれる時間だった。同じ頃朝陽同窓会の百周年記念祝賀会は、ギリギリで中止となった由。私達の方は何とか開催出来、しかも当日集めた会費だけで費用が賄えた。

次回で最後となるかもしれない同期会をH組に引き継げる幸運に感謝している。

たかが同期会、されど同期会、次回もね！

宮岡(青山)淑子